

感じた、  
日本企業の素晴らしさ。  
芽生えた、  
株式を通じて  
応援する意義。

### 生きた経済にふれた、 全国6,331名の若者たち。

2000年よりスタートした、日本経済新聞社が主催する、中・高・大学生を対象とした株式学習コンテスト、「日経STOCKリーグ」。これまでに約7万人が株式を通じて、生きた経済を学んでいきました。学生は3~5人のチームで、世界・日本・地域の未来を想像して、個性豊かな投資テーマを決め、応援したい会社のポートフォリオを構築していきます。全国から1,565チーム、6,331名が参加した今回、日本の優れた企業を発見して応援していくことの意義を多くの学生が学びました。

#### 〈中学部門〉

- ・青梅市立霞台中学校
- ・札幌市立平岡中央中学校
- ・昭和薬科大学附属中学校
- ・世田谷学園中学校 高等学校

- ・筑波大学附属駒場中学校
- ・函館ラ・サール中学校
- ・武相中学高等学校
- ・本郷中学校
- ・横浜市立仲尾台中学校
- ・立教池袋中学校

#### 〈高校部門〉

- ・愛知県立愛知商業高等学校
- ・愛知県立知立高等学校
- ・秋田県立湯沢商工高等学校
- ・茨城県立水戸商業高等学校
- ・磐田東高等学校
- ・愛媛県立新居浜南高等学校
- ・岡山県立岡山南高等学校
- ・お茶の水女子大学附属高等学校
- ・岐阜県立関高等学校
- ・岐阜県立益田清風高等学校
- ・久留米市立久留米商業高等学校
- ・慶應義塾ニューヨーク学院(高等部)
- ・京北学園白山高等学校
- ・埼玉県立大宮東高等学校
- ・埼玉県立越谷総合技術高等学校
- ・滋賀県立彦根翔陽高等学校
- ・静岡市立商業高等学校
- ・島根県立松江商業高等学校
- ・城北埼玉中学高等学校
- ・昭和薬科大学附属高等学校
- ・清教学園中・高等学校
- ・世田谷学園中学校 高等学校
- ・千葉県立跳子商業高等学校
- ・千葉県立鶴舞桜が丘高等学校
- ・千代田区立九段中等教育学校
- ・東京学芸大学附属高等学校

- ・東京都立西高等学校
- ・同志社香里中学校・高等学校
- ・名護商工高等学校
- ・灘高等学校
- ・新潟県立村上桜ヶ丘高等学校
- ・日本学園中学校・高等学校
- ・東山中学高等学校
- ・武相中学高等学校
- ・別府市立別府商業高等学校
- ・北海道静内高等学校
- ・宮崎県立宮崎商業高等学校
- ・山形県立北村山高等学校
- ・山形市立商業高等学校
- ・立教池袋高等学校

#### 〈大学・専門学校部門〉

- ・会津大学短期大学部
- ・青山学院大学
- ・愛媛大学
- ・大阪経済法科大学
- ・大阪府立大学
- ・岡山大学
- ・関西国際大学
- ・九州産業大学
- ・近畿大学
- ・熊本学園大学
- ・慶應義塾大学
- ・高知工科大学
- ・神戸大学
- ・佐賀大学
- ・滋賀大学
- ・札幌学院大学
- ・諫訪東京理科大学
- ・創価大学

※全参加校218校のうち、  
学校名掲載の許可を頂いた100校

## 第11回 中・高・大学生のための株式学習コンテスト

# 日経STOCKリーグ 結果発表

## 数字の動きだけを見るのではなく、地元の企業を見て、業種の内容を学ぶ

アジアの成長を、いかに日本のチャансとして捉えることができるかが重要であるかと言われているが、日本の企業は、アジア各国に拠点を移し、その地域の雇用を増やし、所得を増加させることに貢献し、生産のネットワークを構築してきた。これまで

アジアで生産したものの最終販売先是、欧米であったが今後は、アジア自身の需要を満たすための生産が必要である。さらに、日本との時差がほとんど存在しないアジアでの資産運用は、日本にとっては追い風であるとも言える。このためには、若いうち

から、株式市場や為替の動きに興味を持ち、勉強していくことが、将来の成功につながると考える。

今回のテーマとしては、生活に密着した水・農業の問題を取り上げたり、日本の将来の成長を目指す企業を対象とするなど、視点の優れた

論文が多かった。ただ、数字の動きだけを見るのではなく、自分たちの地元の企業を見て、業種の内容を学ぶことも必要である。現場を知らない頭だけの判断では、誤ってしまうことが多い。今回は、残念ながら入賞できなかった学校の方々も、次年度

を目指し、自分たちの金融に関する見方を高めるためにも、今後とも、是非、参加していただこうと期待したい。

慶應義塾大学経済学部教授  
**吉野 直行氏**

審査  
委員長  
講評

### 最優秀賞 金融担当大臣賞 慶應義塾ニューヨーク学院(高等部)11年



Blessing in disguise  
/災い転じて福となす  
～ニューヨークの女子高校生が選ぶ愛すべき日本の多国籍企業～  
メンバー：櫻井 芳野さん、平岡 恵梨さん、  
丁 史江さん、山根 希望さん  
担当教員：W・ペイリース氏

### 部門賞：中学部門 筑波大学附属駒場中学校3年



水ビジネスが  
日本企業を救う!  
～技術を活かす  
新産業への投資で  
企業を「育てる」～  
メンバー：川手 憲さん、大畑 翠志さん、  
荻島 誠也さん、吉田 崇裕さん  
担当教員：吉田 俊弘氏

### 部門賞：高校部門 灘高等学校2年



第六次産業化による  
農林水産業革命  
～守りから攻めへ～  
メンバー：田島 智哉さん、  
青島 勇太さん、  
中原 一貴さん、  
平井 宏和さん、  
村瀬 啓斗さん  
担当教員：山田 格氏

### 部門賞：大学部門 一橋大学3年



為替適応力3.0  
～Global Learning  
企業に投資せよ～  
メンバー：吉川 和宏さん、  
渋谷 洋平さん、  
鶴岡 亮さん、  
鶴岡 朋子さん  
担当教員：加賀谷 哲之氏

#### 敢闘賞

●筑波大学附属駒場中学校3年 新経済のリーダーを探せ

●東山中学高等学校1年 インドの可能性

●神戸大学3年 Visionary Company

●審査委員特別賞

●武相中学校2・3年 液晶解剖

●滋賀大学1・2年 日本の新未来創造

●琉球大学4年 ぬちぐすいファンド



### 野村グループより特別協賛社賞を授与

これまで日経STOCKリーグを通じて、金融・経済教育に長く取り組まれた指導教諭(教官)の方々

を野村グループより表彰しました。

- 世田谷学園中学校 高等学校 小川信一教諭
- 同志社香里中学校・高等学校 藤井宏樹教諭
- 東山中学高等学校 服部義忠教諭
- 千葉県立跳子商業高等学校 真弓旭教諭
- 横浜市立大学 深澤裕介教授
- 天津外国语大学・淮陰師範学院 小野寺健教授

特別協賛：野村グループ

# 「身近」「先端」「地球規模」 若者の視野を広げる経済学習 日経STOCKリーグ

若者たちの目に、新しい芽が育ち始めています。前回行われた第11回日経STOCKリーグ(主催:日本経済新聞社、特別協賛:野村グループ)では、「衣食住」「娯楽・ゲーム・エンターテイメント」といった身近なお家芸、「先端技術・テクノロジー」という日本が誇る先端科学技術力、「国際・グローバル化」「環境」など地球規模のテーマを中心に、全国6,331名・1,565チームの若者たちが参加し、1,124チームからレポートが提出されました。

東日本大震災の衝撃を受け、若者たちはいま、自分たちにできる身近なこと、日本再生の未来像などさまざまなことを真剣に考え始めています。

日経 STOCK リーグは、中学生・高校生・大学生を対象とした「自主テーマによるポートフォリオ学習」と「レポートコンテスト」です。インターネットを活用した「バーチャル株式の体験学習」や各自の投資テーマに沿ったポートフォリオづくりなどを通じて生きた経済にふれ、自ら考え、学んでいく力を身につけていきます。

単なる利益追求を超え、自分たちなら何に投資するのか、投資を通じて何をどう変えていくのか——彼らがいま、まだ漠然と思い描いているだけかもしれない考え方をまとめ、その熱い思いを、STOCK リーグという場を通じて表現する——日経 STOCK リーグは、その機会を提供したいと切に願っています。

## 未知の世界にチャレンジし、急成長する若者たち

### ■「論語」と「算盤(そろばん)」を一致させる教育プログラム

日経STOCKリーグは、すでに経済学習コンテストとしてのブランドを確立しているとは思っています。日本は米国に比べて株式教育が遅れているという意見がある一方、学校で子どもたちに株式を教えるのはいかがなものかという反対意見を持つ人もいます。しかし、私はどちらも偏った意見だと思います。

株式投資の成果をゲーム感覚で競うだけなら、確かに教育としては好ましくありません。しかし、日経STOCKリーグの場合には、学生が自らテーマを決め、そのテーマに即した銘柄を選定し、さらにレポートに落としこむことで、普段の学校教育では得られにくい「気づき」を得る機会がたくさんあります。会社の株価という「点数」を当てるのではなく、会社の本質的な価値について自ら理解して判断するプロセスそのものを重視する体験学習プログラムになっており、世界に誇れる教育コンテストと言っても過言ではないと思っています。

私が前回の審査に参加して感じたのは、リーグに参加する前までは株式に関してまったく知らなかった学生たちが、数ヶ月後には社会における株式の役割を正しく認識するようになっていたことです。投資家が株式を購入して資本を供給することで、会社はその資本を企業活動の資源として活用し、社会にとって有用な商品やサービスを提供する。つまり、株式投資とは、単なる算盤勘定だけではなく、個人と社会とをつなぐ社会活動

の一環なのだということを学生たちはきちんと学びています。

日本資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一は、「論語と算盤」(1916年)という著書の中で、「論語と算盤」という懸け離れたものを一致せしめる事が今日の緊要の務めである」と説いています。「善い行い」と「善い商い」を一致させる。これは現代にも生きている言葉です。豊かさを持続させるためには、両者の一致こそが求められていると私も考えています。

### ■企業にとっても得ることの多い学生の素朴な視線

参加チームのレポートを読んでいると、ポートフォリオに組み込む銘柄を選ぶために、実際に企業を訪問したり、電話取材をしたりしているケースを見受けられます。プロのアナリストたちも企業取材は行いますが、学生たちの視点はアナリストとは異なり、そこには素朴な思いや疑問、期待がこめられています。

例えてみれば、専門家は象なら象の鼻のしわの数など鼻の特徴を重視しますが、学生たちは後ろ姿を見て、カバと象のおしりの違いを見ようとしたり、目つきや呼吸の仕方まで観察しているかもしれません。そうした素朴で多様な視線は、企業にとっても新鮮な気づきを得るよい機会になると思います。

企業の価値といいものは、そのすべてを数値化できるものではありません。モデル分析に基づいた財務判断は、企業価値の「見える化」の1つの手段ですが、「見えない」価値も学生の視点から見えるかもしれません。

これは先ほどの『論語と算盤』の話にも通じることですが、「真っ当とはなにか」ということを、学生の目線から企業も再認識する必要があると思います。会社での仕事の常識が、身内が受身となった場合も常識と言えるか、それを真っ当な仕事と言えるのかということです。これは、当社はこんな社会貢献活動をしていますという意味ではなく、本業そのものに関わることです。

学生たちが選んだ銘柄にも、私は目をみはりました。コモンズ投信では「コモンズ30」という長期投資を基本スタンスとしたファンドを提供していますが、学生たちが選んだトップ30社は、すべて当社でも議論の対象とした企業です。その意味でも、学生たちの目の確かさには驚かされます。

日本の教育は正しい答えを求める傾向がありますが、投資には正しい答えというものはありません。そこには多様な答えがあり、まさに時代とともに変化していくものです。学生には、「次の時代の主役は自分たちだ」という自覚を持ち、「できない」ではなく「できるんだ」という強い意志を持って、ぜひコンテストに参加してもらいたいと思います。未知の世界にチャレンジすることで、君たちはどんどん成長できるのだと伝えたい。(談)



渋澤 健氏

シブサワ・アンド・カンパニー代表取締役  
コモンズ投信会長

### ●第11回日経STOCKリーグ — レポートテーマ一覧

テーマ	全体会員 (1124人)	中学 (59人)	高校 (480人)	大学 (585人)
	件数	件数	件数	件数
衣・食・住	254(22.7%)	6(10.2%)	129(26.9%)	119(20.3%)
先端技術・テクノロジー	224(19.9%)	25(42.4%)	92(19.2%)	107(18.3%)
娯楽・ゲーム・エンターテイメント	194(17.2%)	9(15.3%)	93(19.4%)	92(15.7%)
環境	192(17.1%)	1(1.7%)	85(17.7%)	106(18.1%)
国際・グローバル化	161(14.3%)	14(23.7%)	51(10.6%)	96(16.4%)
医療・福祉・介護	135(12.0%)	3(5.1%)	48(10.0%)	84(14.4%)
IT・インターネット・情報	133(11.8%)	5(8.5%)	61(12.7%)	67(11.5%)
資源・エネルギー	115(10.2%)	5(8.5%)	46(9.6%)	64(10.9%)
地域活性化	97(8.6%)	4(6.8%)	33(6.9%)	60(10.3%)
人材・雇用・教育	70(6.2%)	2(3.4%)	13(2.7%)	55(9.4%)
経済理論・金融工学	67(6.0%)	3(5.1%)	18(3.8%)	46(7.9%)
CSR・ガバナンス	45(4.0%)	0(0.0%)	9(1.9%)	36(6.2%)
農業・漁業	24(2.1%)	0(0.0%)	7(1.5%)	17(2.9%)
知的財産・無形資産	21(1.9%)	0(0.0%)	6(1.3%)	15(2.6%)
その他	142(12.6%)	7(11.9%)	53(11.0%)	83(14.2%)

※レポートテーマは複数回答可

### ●2010年度日経STOCKリーグ — 銘柄TOP30

順位	銘柄コード	銘柄名	順位	銘柄コード	銘柄名	順位	銘柄コード	銘柄名
1	6758	ソニー	11	9433	KDDI	21	8267	イオン
2	6752	パナソニック	12	9983	ファーストリテイリング	21	7267	本田技研工業
3	6502	東芝	13	3382	セブン&アイ・ホールディングス	23	2802	味の素
4	9984	ソフトバンク	14	6702	富士通	24	6971	京セラ
5	6753	シャープ	15	6503	三菱電機	25	4755	楽天
6	7203	トヨタ自動車	15	4911	資生堂	25	2503	キリンホールディングス
7	4689	ヤフー	17	2702	日本マクドナルドホールディングス	27	4452	花王
8	7974	任天堂	18	4661	オリエンタルランド	27	3632	グリー
9	6501	日立製作所	19	2502	アサヒビール	29	9202	全日本空輸
10	9437	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	20	7201	日産自動車	30	7751	キャノン

### 日経STOCKリーグ 金融経済教育アンケート

- アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で10名様に図書カード3000円分をプレゼント。
- 締め切り: 2011年5月20日(金)

※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お申し込みはお一人につき1回でお願いします。

応募はこちら <http://adnet.nikkei.co.jp/>

日経STOCKリーグ

主催:日本経済新聞社 特別協賛:野村グループ

第12回日経STOCKリーグは、5月下旬から参加チームの募集を開始する予定です。<http://manabow.com/>

# 社会で必要とされるさまざまな力を養う 若者の視野を広げる経済学習

## 日経STOCKリーグ

学校における通常の授業では経験することが少ない実学。日経STOCKリーグは中学生・高校生・大学生を対象に、「自主テーマによるポートフォリオ学習」と「レポートコンテスト」を通じて、若者たちの視野を広げる経済学習です。学生たちはインターネットを活用した「バーチャル株式の体験学習」や各自の投資テーマに沿ったポートフォリオづくりなどを経験することで、生きた経済にふれ、自ら考え、学んでいく力を身につけていきます。

単なる利益追求を超えて、自分たちなら何に投資するのか、投資を通じて何をどう変えていくのか——彼らがいま、まだ漠然と思い描いているだけ

かもしれない考え方をまとめ、その熱い思いをSTOCKリーグという場を通じて表現する——日経STOCKリーグは、その機会を提供したいと切に願っています。

2000年にスタートした日経STOCKリーグは、今年3月に11回目のコンテストを終了し、これまでに延べ17,519チーム、69,752人の学生に参加していました。

第11回日経STOCKリーグの参加者アンケートに寄せられた学生と担当教官の皆様の自由感想コメントの中から、いくつかをご紹介いたします。

### ——「第11回 日経STOCKリーグ」自由感想コメントより——

- 株はもうけるためにやり、プラスで会社を成長させるとと思っていた。しかし日経STOCKリーグに参加してからは、「会社を成長させるために投資して、その結果、会社を選ぶ目が正しければ利益が生まれる」という考え方方に変わった。また、株は日本や世界の技術などを一歩二歩進める役割を担っているのではと気づいた。そして新聞などのニュースにも敏感になれたと思うのでよかった。[中学生]
- チームのみんなと協力してレポートを完成させた時は達成感があった。株式の勉強もできだし、これから使える知識を身につけることができてよかった。ただ、利益があまり上がらなかった事が残念。[高校生]
- 経済のことを幅広い目標で見ることができたのでとても勉強になりました。新聞をあまり読む機会がなかったので、新聞の大切さなども知りました。[高校生]
- 今まで、株や社会情報について考えることが少なく日経STOCKリーグは大変よい経験となりました。STOCKリーグを通して中小企業の良さを知ることができ、就職するときの励みになった。[高校生]
- 経済についてだけでなく、レポートのまとめ方や企業への電話のかけ方など、社会で仕事をしていくために必要なことが経験できてよかったと思いました。[高校生]
- まずテーマ設定から悩み、各企業の調査をしたり大変でしたが、出来上がったとき達成感があった。[高校生]
- 普段なじみのない株取引について理解を深めることができた。企業について調べていく中で感じられた企業努力や、チーム内で意見の討論をするなど、株の取引以外についても学習することができたのでよかった。[高校生]
- 投資の経験など全くない学生にとって日経STOCKリーグへの参加は貴重な経験となりました。私たちは大学生ですが、中学生や高校生の早い段階で経済やお金のことについて学ぶことも、これから生きていく上で重要なことだと思います。これからの中学生のためにも、このような取り組みを継続していただけることを願っています。[大学・専門学校生]
- 最初は、日経STOCKリーグを通して株式投資やスクリーニングの方法、リスク分散の考え方、さらに経済の流れなどを学びたいと思い参加しました。実際に取り組みを通して、これらの事を学ぶことができました。やはり「自ら体験する」ことで得られるものは机上での学習よりも大きいものだと感じました。さらに、このことだけでなく学んだことがあります。それは「仲間の力の大きさ」でした。1人ではこのような深みのあるレポートは作成できなかっと思います。皆で考えを出し合い、作業を分担することでこんなにも素晴らしいレポートが作れるという事を学びました。レポート完成時は本当に感動しました。[大学・専門学校生]
- ただ漫然と投資を行うのではなく、自らテーマを設定したファンドを作成するという学習はとても勉強になった。また、学習の中で今まで知っていた以上に魅力的な企業が多いこと、知っていた企業にも魅力的な商品が数多くあることを学ぶことができた。[大学・専門学校生]
- 日経STOCKリーグへの参加を通じて、日本企業(経済)が抱える問題点やその解決について、深く考えることができました。とりわけ、数多くの経済データ・個別企業の情報に触れることで、漠然としたものではなく具体的な考えを持つことができました。ぜひともより多くの学生が参加するべきだと感じました。[大学・専門学校生]
- 日経STOCKリーグを通じて、投資対象の選択についてさまざまなアプローチがあることを学んだ。これまでの分析手法は企業財務に基づくファンダメンタル分析とチャートを用いるテクニカル分析の主に2つだと思っていたが、過去の入選作品を見たりレポートを書く中で、自分たちで考えたテーマに基づきスクリーニングや定性分析を行うことによっても投資対象を選定できると知り、新鮮だった。そういう独特的な視点から経済ニュースや企業の情報を見るのは非常に興味深かった。[大学・専門学校生]

■ 参加したのは一部の生徒であったが、間違いなく経済やその他の社会の出来事への関心が高まったと思う。[中学 担当教官]

■ 社会を見る目を養う点で、非常に有意義なプログラムです。これからも20回、30回と続けていっていただきたい。[中学 担当教官]

■ 新聞および資料等送付いただき、金融教育として授業展開できることに感謝しています。[高校 担当教官]

■ ファイナンスの学習の集大成と位置づけて実践しています。集団活動を通して、生徒も色々な事を学んでいます。[高校 担当教官]

■ 単なる知識だけでなく、応用力が問われていると思う。今後の高校生に必要な所だと思う。[高校 担当教官]

■ 生徒たちが主体的に取り組める教材でした。途中は大変な事も多々ありましたが、どのチームも最後までなんとかレポートを仕上げることができ、生徒自身がそれぞれに達成感を感じている様子を見ることができました。それを見て、参加してよかったと心から思いました。[高校 担当教官]

■ 実体経済の把握、チームでのコミュニケーション能力、情報収集能力、文章力、プレゼンテーション能力など、社会で必要とされるさまざまな力(総合力)を養う上でこれ以上ない企画であると感じた。[大学・専門学校 担当教官]

■ 新聞報道、決算発表が投資銘柄の株価に与えるインパクトを日々の値動きを見て知るなど、大学の普段の講義では学べない実践的体験ができる機会が得られて、有意義であると感じた。[大学・専門学校 担当教官]

■ 最近、身の丈を超える社会動向に関心が薄い大学生が多くなり、マクロ経済学を教えることが大変難しくなっていると感じております。日経STOCKリーグは、学生に、個々の家計・企業などの経済行動がマクロ経済を構成し、同時にマクロ経済が個々の家計・企業などへ影響するということを身を持って体験する貴重な場を提供していただいていると感謝しております。[大学・専門学校 担当教官]



※写真はイメージです。

**日経STOCKリーグ**

主催:日本経済新聞社 特別協賛:野村グループ

第12回日経STOCKリーグは、5月下旬から参加チームの募集を開始する予定です。<http://manabow.com/>

### 日経STOCKリーグ 金融経済教育アンケート

- アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で10名様に図書カード3000円分をプレゼント。
- 締め切り: 2011年5月20日(金)
- ※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。
- ※お申し込みはお一人につき1回でお願いします。

応募はこちら <http://adnet.nikkei.co.jp/>